

骨を埋葬してはならない、として、墓を持つことを強制したような側面がある。

同法は火葬も、火葬場以外では行っていない、と定めています。ほとんどの地方自治体が条例で土葬を禁止している。火葬も事実上、強制されている。現在では遺体の99・89%は火葬されています。

だが高齢者人口の増加にともなう、亡くなる人の数が急増。墓地や火葬場は予約でいっぱいとなり、先述の「20分葬儀」のような事態を引き起こしたのだ。「さらに、高度経済成長期には、葬儀や墓の費用のインフレも起こりました。」

日本消費者協会の10年の調査では、葬儀費用の平均は約200万円。墓の費用（永代使用料と墓石代）の平均は、都道府県別でもっとも高い東京都で約278万円。葬儀や墓の費用をもろもろ合わせると500万円以上になる（島田氏）

自分の死後、遺された家族にそれほどの負担をかけてまで、葬儀をしたり墓を建てたりする意味があるの

だろうか。



遺骨ダイヤモンドで作られた指輪とネックレス

くなど思い思いの弔い方をすることが、広く社会的に認められている。風に乗って流れていくのも、世界的に見れば決して、非常識な逝き方ではない。

もちろん、本人が旧来型の葬儀や墓にこだわらなくとも、遺族の側が故人を思うようすが欲しいと願うことはあるだろう。

そんな気持ちに込める新しいサービスも次々に登場している。一例は「遺骨ダイヤモンド」だ。いったいどういうものなのか。スイ

ス企業の日本法人であるアルゴダンザ・ジャパンの山田容子氏はこう説明する。「弊社では、遺骨から抽出した炭素だけを使って、合成ダイヤモンドを作っています。そのためには、全身の遺骨の5分の1から4分の1にあたる、300gの遺骨が必要になります。」

お客さまの大半は女性です。ご主人、お子さまなどを亡くされて、いつまでも肌身離さず一緒にいたい、ダイヤモンドにして指輪やネックレスとして身に付けて

られるのです」0・5カラットのダイヤモンドにすると、費用は98万3000円。さらに上の写真の指輪を作る場合、ブラチナ台を選ぶと15万8000円の加工代がかかる。さすがダイヤモンドといつたところだが、同社代表の法月雅喜氏は、「富裕層だけでなく幅広い層からのニーズがあります」と話す。

新しい逝き方・送り方。古い形にとらわれない、自分なりの最期を迎える選択肢が、いま広がっている。

第2部

最期くらいわがままに

病院なんかで死ななない

無理な延命はしない

新しい「逝き方」が求められているのは、何も死後のことばかりではない。まさに人生の終わりを迎

えるそのときを、どう過ごすか。つまり、「どうやって死ぬか」も、いま大きな転換点を迎えている。

現代の日本では、多くの人は病院で「そのとき」を迎えている。

ところが、病院に運ばれられ、穏やかな最期を迎えられないという人がほとん